

## 就学前（乳幼児期）における「個別の教育支援計画」作成・活用のポイント

### <「個別の教育支援計画」を作成・活用するメリット>

- 「個別の教育支援計画」を作成することにより、本人や保護者の願いと支援者側の思いを共有しやすくなります。
- 保護者が、我が子の「特徴」を理解しやすくなります。また、関係機関に対して、我が子の「特徴」を説明するときに役立ち、保護者としての考えや願いを整理することができます。
- 「～ができるようになる」と目標を明らかにすることにより、子育て支援センターなどの関係機関と一緒に、いつまでに、何を目指してどんなことをしたらよいかを考えることができます。
- 小学校との引継において、子どもの実態や取り組んできた支援内容等を提示することにより、子どもに適した継続した支援を行うことができます。

### ■就学が目前に迫り、子どもの様子が気になりだした保護者から相談された事例

#### <子どもの実態と抱えている課題>

- ・乳幼児健診の結果から療育相談の利用を勧められていたが、保護者が迷い「様子を見たい」と希望したため、専門相談を利用せずに経過していた。
- ・保育所入所以降、発達の伸びと合わせ、特徴もはっきりしたため、その都度、保護者に助言していた。
- ・就学まであと1年となり、我が子の特徴を保護者なりに受け入れ、今後が不安になり相談に至った。

#### 実態の把握

関係担当者名： ○○保育所 担任

#### 【作成する際のポイント】

- ・子どもの「特徴」を、書けるところから、簡単に記入していくことが大切です。

年 月 日作成

項目	できること・得意なこと		気になること	
	お子さんの様子	場面・状況	お子さんの様子	場面・状況
生活	本人の力でできたこと、できること。よい変化など。	本人がうまくできるための助けになる状況、物や人など。	本人の力でできづらいこと、苦手なこと。気になる変化など。	本人が力をうまく出せないことに関わる状況、物や人など。
行動等	ここに記入することは、睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔習慣、生活時間や行動範囲など、生活全般についてです。			
遊び	<b>【活用する際のポイント】</b> ・療育相談を行う際に、担当者にこのシートを提示した上で、話し合うことにより、子どもの状況を説明しやすくなります。		・周りの状況に関係なく、しゃべり出すと止まらない。 ・ハサミを使って決められた線のとおりには切るのが苦手である。	
	<b>【作成する際のポイント】</b> ・子どもの様子に変化のみられるところは二重線で消して、新しい情報を追記すると成長の経過が分かります。			
人との関わりや場所の理解など	ここに記入することは、行動や性格の特徴、感情の起伏や気持ちのコントロールなどについてです。		ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。	
	・明るい ・素直 ・静かなところであれば、集中して作業ができる。		・お友達と一緒に遊びでは、ルールがわからず争いしてしまう。 ・ブロックで遊ぶことができないと怒り出し、気持ちが落ち着くまでに時間がかかる。	
人との関わりや場所の理解など	・お友達と仲良く遊びたいと思っている。		・話し出すと止まらなくなるため、関わってくれるお友達が少ない。 ・友達が自分を避ける理由が分からず、いじけた気持ちになる。	
	<b>【活用する際のポイント】</b> ・このようなメモがあると、各種相談支援機関や学校などで、関わり方の工夫がしやすくなります。		<b>【活用する際のポイント】</b> ・お子さんの特徴をメモしておく、保護者が各種相談支援機関や学校などへ事情を説明する時、状況が整理されていて便利です。	

## 関係機関との連携

### 子ども支援センターやことばの教室、相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやったこと、変化があったことやエピソード等)
1	H〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇子育て支援センター 担当：▲	ハサミで上手に切り抜きができたことについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○や△などの形に沿って紙を切ることができました。途中うまくいかず放り出すかと思いましたが、自分でチャレンジすると決めて始めたことを励ますと、最後まで頑張ることができました。出来映えもよかったです。褒められてとってもよい笑顔を見せてくれました。大満足だったと思います。</li> </ul>
2	H〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇保育所 担当：◇	かんしゃくについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック遊びに夢中になると、他のことに気にせず、いつまでも遊び続けるので困っていた。こちらもつい怒ってしまい、本人はかんしゃくを起こす。保育所の先生に相談し、アドバイスどおり前もってスケジュールを示すようにしたら、2回に1回は気持ちの切り替えに成功した。聞き分けのよい子どもの姿を見てびっくり！関わり方の工夫でできることがあると実感した。</li> </ul>

#### 【作成する際のポイント】

- ・簡単に書いて、詳しくは別紙にしてもよいですし、日記風を書くなどの工夫をしてもよいでしょう。とにかく長く続けることが大切です。

#### 【活用する際のポイント】

- ・「保護者が記入」となっていますが、支援者に書いてもらえるようであれば、協力してもらいましょう。難しければ、受けた助言内容を書いておくと、忘れずに済むので便利です。

### 医療・療育機関・相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやったこと、変化があったことやエピソード等)
1	H〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇療育センター 担当：▲▲	発達検査 〇〇式検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えや感じていることを言葉にして表現するのが苦手なようです。親御さんが子どもさんの考えや気持ちを想像して代弁してみましょう。それをお子さんが聞くことで、語彙数が増えたり、表現のバリエーションを広げる助けになったりするでしょう。できるだけ、具体的な言葉掛けをしながら関わるとよいと思います。</li> </ul>
2			<ul style="list-style-type: none"> <li>【作成する際のポイント】</li> <li>・「まずは書いてみる」ことが大切です。どこへ相談し、どこから助言を得たのか分かればよいので、できる範囲で無理をせず書いてみましょう。</li> </ul>

#### 【活用する際のポイント】

- ・検査結果など別に資料がある場合は、同じ番号をふって、綴じておくと分かりやすいです。

## 「個別の教育支援計画」

年 組 ( 歳 か月) 氏名  
作成年月日 年 月 日 記入機関・記入者

### メイン支援機関の希望・願い

- ・人と関わる機会を増やし、楽しい気持ちを感じることができる。
- ・事前にスケジュールを示し、本人が次の行動に困らない環境整備をする。

#### 【作成する際のポイント】

- ・実態を整理することにより、本人や保護者の願いと支援者側の思いを共有しやすくなります。

### いまの様子（現状把握）

#### 今後の手がかり

- ・お友達を作りたいと思っていて、本人は人との交流に意欲をもっている。
- ・時と場をわきまえず、しゃべり出したら止まらない傾向が少しでも収まってくるとよい（保護者）。

#### 気になること

- ・ルールの理解がうまくできない。
- ・お友達の中にいると、うれしい気持ちが先走って興奮しやすい。

#### 【作成する際のポイント】

- ・「〇〇のように変化するとよい」と思うイメージ像で記入すると分かりやすくなります。

### 長期目標：（１）年後を見通した目標

- ・お友達の中にも、興奮せずにいることができる。

#### 【活用する際のポイント】

- ・目標を明確にすることにより、いつまでに何を行えばよいかが分かり、支援内容を検討しやすくなります。

### 短期目標：（３）か月内を見通した目標

- ・分からないことがあるときは、その都度、担当保育士に助けを求めることができる。
- ・自分なりに興奮を鎮める方法（例 お気に入りのキーホルダーを持つ）を見つけることができる。

#### 【作成する際のポイント】

- ・長期目標のゴールに向けて、本人が少しでも頑張ればできる具体的な取組を挙げてみます。

### 支援の手立て

#### 本人への働きかけ

- ・不安やイライラなど本人の様子を見て、積極的に声をかける。
- ・困りそうな場面を想定しておき、〇〇の時は▲▲すると、前もって伝えておく。
- ・うまく対応できたときの場面や方法を繰り返す。

#### 【作成する際のポイント】

- ・関わる場面を明らかにして、具体的な手立てを書きます。

#### 環境調整の工夫

- ・スケジュールを提示する。
- ・図示して説明、提示、掲示する。
- ・場所や場面ごとに、本人の定位置を決める。
- ・気分が高揚したときに、冷静になれる場所を確保する。

- 平成27年〇月〇日： スケジュールを視覚的に提示したことにより、次の活動を意識して行動することができた。
- 平成27年〇月〇日： □□祭りでは、感情が高ぶり興奮を押さえられず、友達をたたいてしまう様子がみられたので、別室で落ち着かせた。その後は、みんなと一緒に行動することができた。今後は、どんな状況、場面、出来事で高揚するのかを、本人と一緒に振り返り、うまく対応できたときのイメージを基に練習を行う。